長ねぎ

病害虫の発生が更に多くなる時期ですので、圃場を確認しながら適期防除に努めましょう。

【病害】

梅雨入り以降、気温は低めで推移し、定期的な降雨により湿度が高く、病害の発生が非常に多くなっています。

・軟腐病：オリゼメート粒剤、ヨネポン水和剤、スターナ水和剤、Ｚボルドー　など
・白絹病：モンカット粒剤、モンガリット粒剤、モンカットフロアブル40　など
・べと病：リドミルゴールドＭＺ、レーバスフロアブル、フォリオゴールド　など
※今年は特に多く発生しています！
・さび病：ラリー乳剤、オンリーワンフロアブル、アミスター20フロアブル　など
・黄色斑紋病斑対策のため、黒斑病（葉枯病）の防除をしましょう。
ロブラール水和剤、ポリベリン水和剤、テーク水和剤など
※夏ねぎの収穫が始まっているので、収穫前日数に注意しましょう。

【害虫】

今後、気温が高くなれば害虫の発生が多くなるので注意が必要です。

昨年は夏場の干ばつ・高気温でネギアザミウマが多発しました。

・ネギアザミウマ：ダントツ粒剤、ハチハチ乳剤、アグロスリン乳剤、ディアナＳＣ　など
※多発した場合は、系統が異なる剤や遅・速効剤の組み合わせによる混合散布が効果的です。
・ネギハモグリバエ：リーフガード顆粒水和剤、ベストガード粒剤など

山うど

今後の管理について

【摘芯について】

・倒伏軽減のため、茎長80～100cmで摘芯して下さい。
・本葉12～15枚時（お盆頃）、頂部に花蕾ができた頃が摘芯適期であるが、それ以前に倒伏する危険がある場合は早めに摘芯して下さい。

品　種	品種特性	摘芯時期の目安
紫芽の白	花蕾形成が早い	７／下旬～８／中旬
群豊白	わき芽の生育が旺盛	８／上旬～中旬
東武鯉玉	秋芽が発生しにくい	７／下旬～８／中旬
愛知坊主	風に揺すられると秋芽になる	８／上旬～中旬

【排水対策について】

・うどは湿害に弱いため、排水不良の圃場では明渠を掘るなどの対策を図りましょう。

【病害虫防除について】

・アブラムシ類、カミキリムシ、メイガの発生を確認し、多発する場合には薬剤で防除しましょう。
スミチオン乳剤1,000倍（アブラムシ、センノカミキリ、ウドノメイガ）
カルホス粉剤６kg／10ａ（センノカミキリ）
アドマイヤーフロアブル2,000倍（アブラムシ類）

アスパラガス

露地栽培での注意点について

露地栽培では、６月末から立茎（茎を１本残して栄養を蓄える）に入るので、伸ばした茎が折れないように管理しましょう。追肥の時期にもなりますので、Ｓ646やジシアンなどを生育に応じで散布してください。

【茎枯病】梅雨時期と９月に発生します。被害残渣から発生しますので、前年に発生した畑では注意しましょう。

【斑点病】茎枯病と同じく被害残渣から発生します。風通しが悪くなると被害が大きくなるので注意しましょう。

きゃべつ

干ばつへの対策について

７月中旬には圃場の準備をし、また、連作障害を抑制するために土壌処理剤を散布しましょう。さらに、夏場は干ばつ被害になりやすいので、カルシウム等の資材も投入しましょう。

定植時期は７月下旬から８月上旬です。遅くなると気温が低下するため結球しづらくなります。高単価を狙える９月中旬から10月上旬に出荷できるよう定植は遅れないようにしましょう。

定植前には、スタークル顆粒水和剤やプレバソンフロアブル５をトレーに灌注処理し、初期の害虫防除をしましょう。気象条件により異なりますが、２週間～３週間は効果が継続します。

定植後は、干ばつ状態になりやすいためスプリンクラーなどの冠水設備の使用をお勧めします。さらに、干ばつに負けないようにするために、定植後には、速効性の肥料を若干量施用し活着がスムーズに進むようにしましょう。

畝間・株間の除草は徹底しましょう。

みょうが

根茎腐敗病の防除について

【病徴】

ピシュウム属菌（カビの一種）が原因でおこる土壌伝染性の病害です。

高温（30℃以上）を好み、土壌水分が多いと発生しやすくなります。下位葉から黄化し枯れ上がります。このとき、地際部が軟腐しており簡単に引き抜けます。病徴の進展が激しいと倒伏枯死します。

【対策】

(1)　環境の改善

排水対策→高畦や暗渠、明渠の設置により排水をしやすくします。

間 引 き→間引きをすることで風通しがよくなり、高温多湿を防ぎます。

敷きわら→厚く敷くことで地温の上昇を抑えます。

(2)　新植・改植

みょうが作付け履歴のない圃場に植付けることで、土壌環境を一新できます、ただし、植付ける種根茎が感染した株だった場合、新植圃場でも発病の恐れがあります。

【薬剤防除】

ユニホーム粒剤を18kg／10ａ、収穫30日前までに土壌表面に散布します。また、オラクル顆粒水和剤2,000倍、ランマンフロアブル500倍のいずれかを３Ｌ／㎡収穫３日前に土壌灌注します。

牡牛座（4・20～5・20）　うっかりミスを連発しやすいかも。常に確認作業を忘れないで。気分のリフレッシュにはハイキングがお勧め